

## 『日本看護倫理学会誌通巻第5号』投稿手引き

下記の要領で、日本看護倫理学会誌通巻第5号への投稿を募集します。募集期間は2012年7月1日～8月20日です。査読は締め切り日以降に開始し、最終的な採否判定は12月中旬とします。

日本看護倫理学会編集委員会  
委員長 小西恵美子

### 記

#### I. 投稿資格

本誌への投稿者は共著者も含めて全員、日本看護倫理学会の会員とする。ただし、編集委員会が特に認めた場合はこの限りではない。

#### II. 投稿論文の種類

本誌に掲載する論文は、看護倫理に関する①原著論文、②短報、③レター、および④その他に相当する論文で、未公開のものとする。論文の種類、内容、文字数は表1のとおりとする。

表 1

論文の種類	内容	最大文字数(図表・文献含む)	要旨	図表点数	審査
原著論文 (Original paper)	質的または量的な実証研究、論壇、総説、理論や方法論等の論説等で、成果がまとまり、医療・看護の倫理に関する新しい知見を論理的に示した完成度の高い論文	(和)16,000字 (英)8,000words	400字以内の和文及び200words以内の英文	原則5以内	査読
短報 (Brief note)	実践報告、事例報告、研究報告等で、速報性ある貴重な知見を提供している報告	(和)8,000字 (英)4,000words	同上 但し、英文要旨は省いてもよい	原則5以内	査読
レター (Letter)	実践・教育・研究現場などからの所感や意見、掲載された論文への論評やその応答等を述べたもの	(和)4,000字 (英)2,000words	不要		編集委員会
その他 (Others)	書評やトピックスなど編集委員会 が認めたもの	(和)3,000字 (英)1,500words	不要		編集委員会

\*原則として図表は1つにつき1,000字に相当するものとしてカウントする。

#### III. 投稿原稿

原稿は、和文または英文とし、後述の執筆要領に指定されたスタイルに従う。

For English submission, please refer to Manuscript Submission Guidelines for the journal "Nursing Ethics".

#### IV. 倫理的配慮

論文は、その内容に応じて、倫理委員会の審査を含め、研究対象者の権利が尊重されるようにした手続きについて記述するとともに、論文全体を通じて、対象者の権利および知的財産権の保護に十分配慮して記述する。学術誌等に掲載された図表を転載する場合には、その学術誌等の規定に基づいて手続きをとること。

#### V. 投稿原稿の採否

原稿の採否および掲載順は、編集委員会が最終的に決定する。

## VI. 査読および原稿の修正

1. 「原著論文」および「短報」は、少なくとも2人の査読者が査読する。「レター」および「その他」は、編集委員会の審査により採否を決定する。なお、査読は原則2回までとする。
2. 採否の決定にあたり、「投稿者が希望する論文種以外ならば受理可能」と編集委員会が判断した場合は、その決定を保留して投稿者に連絡し、その結果によって採否を決定することがある。
3. 採用に際し、編集委員会は原稿の修正を求めることがある。修正を求められた原稿は、指定する期日までに修正して送付すること。期限までに送付されなかった場合は投稿取り下げとみなし、原稿を処分することがある。
4. 編集委員会は、受理した原稿を必要に応じて編集できる権限を有する。

## VII. 校正

著者校正は、校正刷りの段階で原則として1回のみとする。誤字脱字等の軽微な修正にとどめること。大幅な加筆修正はできない。また、締め切りを厳守する。

## VIII. 掲載論文の責任および著作権 (copyright)

1. 掲載された論文の責任は著者にある。
2. 掲載論文の著作権は、電子的な二次使用（たとえばpdfによるネットワーク配信）や論文データベースの作成、第三者に対する転載の許諾等を含め、本学会に帰属する。
3. 受けつけた原稿は返却しない。
4. 本誌に掲載された図表等を他誌に転載する際は、当該著者の許諾を得、出典を明記する。
5. 掲載論文中に一般的な引用の範囲を超えた文章、図表等を転載する場合、その著作権者からの許可は投稿者が取得し、その許諾書（写し）を提出する。
6. 本学会誌に掲載された著作物をその著作の著者自身が利用する場合、本学会は原則として異議申し立てをしたり妨げたりすることはしない。ただし、利用に際しては出典を明らかにするものとする。

## IX. 執筆要領

1. 本学会ホームページ上の執筆例を参考にして執筆すること。
2. 原著論文および短報には、400字以内の和文要旨と200語以内の英文要旨をつける。ただし、短報の英文要旨は省いても良い。
3. すべての原稿には和文および英文タイトル、6つまでの日本語および英語のキーワードを記載する。
4. 著者の母国語が英語でない場合、必ず適切なネイティブスピーカーによるチェックを受け、その旨をチェックリストに明示すること。なお、ネイティブスピーカーによるチェックとは、自分で英文を書き、それをネイティブスピーカーが推敲することである。
5. 正原稿の他に、著者名やその所属など、著者が特定できる情報を削除した副原稿も提出する。
6. ページレイアウトは、A4判（縦使い）、横書き、1ページ40字×30行（1,200字）、余白を上下左右30mm、左揃えの設定とする。英文ではハイフネーションはしない（行末に単語が来た場合、ハイフンで切って以降を次行に送ることはしない、つまり、一つの単語は行内に収めることの意）。
7. 本文の右上に通しのページ番号を入れる。
8. 書体
  - 1) 本文のフォントは、日本語はMS明朝、サイズは10.5ポイント、英文はTimes New Roman 12ポイントとする。
  - 2) ひらがな、カタカナ、漢字、句読点、および和文本文の括弧は全角で、それ以外（数字、アルファベット、数字、記号）は半角とする。

9. ナンバリングは次の方式とする。

1) 原著論文・短報

- 章レベル：Ⅰ. Ⅱ. Ⅲ. … (全角。番号の後に点をつける)
- 節レベル：1. 2. 3. … (全角。番号の後に点をつける)
- 項レベル：1) 2) 3) … (半角)
- 更に下位のレベル：(1) (2) (3) … (半角)
- 箇条書き等：① ② ③ … (全角)

2) レター・その他

章レベルのナンバリングはせず、節レベルからとする。

10. 句読点

- 1) 本文中では、全角の「、」と「。」に統一する。
- 2) 句読点以外の、「,」「;」「:」などは全て半角とする。

11. 図表

- 1) 図表は、図・表だけとし、図、表それぞれについて本文出現順に図1、表1から始まる連番を付し、本文に記載する。
- 2) 図表の挿入位置を図表番号タイトルとともに両かき括弧で括り「中央揃え (センタリング)」で本文中に示す。  
例) [図1：ケアリングの構成概念をここへ]
- 3) 図表は黒一色で作成する。グレイスケールおよびカラーは受け付けない。
- 4) 原稿の文字数カウントに際しては、原則として図表は1枚につき1,000字に相当するものとする。  
大きすぎる図表については別途指示することがある。
- 5) 英語論文の執筆要領 (文献リストの形式以外) は、Nursing Ethics誌に準ずること。

12. 修正稿の書き方

査読、編集委員コメントその他の理由で原稿を修正する場合、「修正1稿」は赤字、「修正2稿」は青字で表示する。更なる修正が必要な場合はピンク文字で表示する。

## X. 文献の記載方法

1. 文献の引用は番号引用形式を使用する。本文中の引用箇所連番を上付き書式で付し (例：「柳田ら<sup>1</sup>の調査では、・・・」)、本文末尾に、題を「文献」として、その番号とともに文献を引用し、文献リストを作成する。同じ文献を引用する時は最初に引用した文献の番号を再利用する。この理由から、文献番号の挿入および文献リストの作成に際しMicrosoft Wordの自動文末注作成機能の使用は避ける。
2. 文献リストでは、引用文献の著者が6名以内である場合は全著者名を記す。7名以上の場合、筆頭者3名のみをあげ、○, ○, ○他とする。外国語論文の場合は○, ○, ○ et al. とする。著者名は、和文の場合フルネーム表示とし、外国語の場合は姓をフルネーム、名をイニシャルで表示する。
3. 日本語の雑誌名はフルネームで記載する。英文雑誌も同様とするが、Index Medicusの略称を用いてもよい。ただし、英文雑誌の正式名称と略称はどちらかに統一する。
4. 記載例以外の引用形式についてはNLMのガイド (下記文献番号11) に従う。
5. 単行本・翻訳本は、本文で引用開始頁を示し、次のように記載する。文献リストには引用頁は記載しない。  
例：「一とピーチャムらは述べている (p.37)<sup>5</sup>。一」  
(この例では、ピーチャムらの文献番号が5で、引用箇所はその文献の37頁であることを示す。なお、頁は小文字のp.で示すこと。)

6. 文献リストの記載例

【雑誌】

{引用番号}. {著者名}. {論文の表題}. {雑誌名} {出版年}; {巻数} ({号数}): {始頁} - {終頁}.

-例-

1. 長谷川晃之, 高橋一宏, 木村春彦, データマイニングを活用したコンプライアンスリスク予測手法の提案. 生産管理2007; 14 (1) : 67-72.
2. Champion R. Developing responsibility. Nurs Times 1991; 87 (27) : 38-39.

【書籍】

{引用番号}. {著者名}. {書名}. {版数}. {出版地} : {出版社} ; {出版年}.

-例-

3. 倫理花子. 看護倫理序説. 第2版. 東京 : 看護倫理出版会 ; 2010.
4. Huff D. How to lie with statistics. Second edition. London: Penguin; 1991.

【書籍の一部】

{引用番号}. {著者名}. {章のタイトル}. In: {編者名} (翻訳書の場合は {原著者名} {原著出版年} / {翻(監)訳者名} {翻訳書出版年}). {書名(翻訳書名)}. {版数}. {出版地} : {出版社} ; {出版年} (翻訳書の場合は不要).

-例-

5. 倫理太郎. 第6章ケアの倫理. In: 佐久花子編. 看護倫理序説. 第2版. 東京 : 看護倫理出版会 ; 2010.
6. De Raeve L. 第9章 徳の倫理. In: Davis AJ, Tschudin V, de Raeve L. 2006/小西恵美子 2008. 看護倫理を教える・学ぶ. 倫理教育の視点と方法, 東京, 日本看護協会出版会.
7. Peter E. Home health care and ethics. In: Storch JL, Rodney P, Starzomski R eds. Toward a moral horizon. Nursing ethics for leadership and practice. Toronto: Pearson; 2004.

【翻訳書】

{引用番号}. {原著者名}. {原著出版年} / {翻(監)訳者名} {翻訳書出版年} : {翻訳書名} (版数), {出版地}, {出版社}.

-例-

8. MacIntyre A. 1984/篠崎榮 1993 : 美徳なき時代 (第5版), 東京, みすず書房.

【会議録】

{引用番号}. {著者名}. {タイトル}. In: {主催者}. {抄録名} ; {開催日} ; {開催地}. {出版地} : {出版者}. {出版年}. p. {頁}.

(これらのどれかの情報が欠けていた場合は、欠けたままで記載する)

-例-

9. 小野美貴, 小西恵美子. よい看護師を育むものと阻むもの : 臨床看護師の視点. In: 日本看護倫理学会第2回年次大会事務局編集. 日本看護倫理学会第2回年次大会予稿集 ; 2009年6月6日 ; 佐久市. 佐久市 : 佐久大学看護学部内日本看護倫理学会第2回年次大会事務局 ; 2009年. p.38.

【インターネットの情報】

{引用番号}. {著者名}. {タイトル}. {雑誌名} [インターネット]. {出版日} [検索日 {検索日}] ; {巻数} ( {号数} ) : {始頁} - {終頁}. Available from: {URL}

-例-

10. Sato R, Maeda J. Changes in the sleep during prolonged bed rest in healthy young men. 大分看護科学研究 [インターネット]. 2002 [検索日2008年9月16日] ; 3 (2) : 29-32. Available from: [http://www.oita-nhs.ac.jp/journal/PDF/3\\_2/3\\_2\\_1.pdf](http://www.oita-nhs.ac.jp/journal/PDF/3_2/3_2_1.pdf)
11. Patrias K. Citing medicine: the NLM style guide for authors, editors, and publishers [Internet]. 2nd ed. Wendling DL, technical editor. Bethesda (MD) : National Library of Medicine (US). 2007 [updated 2009 Oct 21; cited 2010 Jan 1]. Available from: <http://www.nlm.nih.gov/citingmedicine>

## XI. 原稿の提出方法

1. 提出する原稿は共同研究者にフィードバックを求めるなどして、十分に推敲を重ねること。

2. 実証的研究を扱った原著論文や短報の場合は、とくに次の点に留意して論文を作成する。
  - a. 研究目的に照らして適切な研究対象（者）・方法を採用しているか。
  - b. 研究対象（者）・方法についての論述は適切か。
  - c. ツール（尺度）を用いる場合、研究目的に照らして適切なものを選択しているか。また、その旨を本文に記しているか。
  - d. 倫理的配慮についての記述は適切か。
  - e. 単に結果を提示するのではなく、結果について十分な考察を加えているか。
  - f. 事実と解釈とは十分に区分しているか。
  - g. 研究にあたって前提にしたこと、および研究の限界が述べられているか（該当する場合のみ）。
  - h. 統計処理が必要な場合、その手法は適切か。
3. 原稿は、電子媒体として電子メール添付して投稿する。その際の、本文・図表のソフトおよび作成上の注意は、次のとおりとする。
  - 1) 正本文、および、著者情報をマスクした副本文:
    - Microsoft Word 97-2003形式 (.doc) とする。Word2007以降の形式 (.docx) は受け付けない。
    - 副本文には、左欄外に「行番号」を付すこと。
    - 「行番号」の付し方：
      - Word 97-2003版では、「ファイル→頁設定 → その他 → 行番号 → (頁ごとで) OK」
      - Word 2007以降の版では「ページレイアウト → 行番号 → (頁ごとで) OK」
  - 2) 表：表は1つのファイルとし、表ごとに別fileにしないこと。
    - ソフトは、Microsoft Excel 97-2003形式 (.xls)、または、word (.doc) とする。
    - Excelで表を作成する場合は、表1点につき1枚のワークシートを使用し、ブック形式で保存する。
    - Wordで表を作成する場合は、表1点ごとに改ページする。
  - 3) 図: JPEG (.jpg)、PNG (.png)、TIFF (.tif) 形式、またはそれを貼り付けたWordあるいはExcelを推奨する。本誌では、提出された図表をそのまま版下として使用するのので、印刷に耐えうる図表（一般に300dpi以上）を作成すること。不適切な図表は受け付けない。
  - 4) 図表には「行番号」は不要。
4. 原稿の提出方法
  - 1) 「原著論文」・「短報」：①正本として、本文・図表の一式、ならびに、②副本として、著者情報をマスクした本文と図表のpdf版一式を提出する。
    - pdf化する際、「ドキュメントプロパティ」を印刷範囲から外すこと。
    - Excelの表をpdf化する時は、必ず、ブック全体をpdf化すること。
  - 2) 前項以外の原稿：本文および図表の正本一式を提出する。副本は不要。
5. 提出原稿は次からなる：①チェックリスト（本学会ホームページからダウンロード）、②投稿票（本学会ホームページからダウンロード）、③正本文（原著・短報の場合は要旨を含む）、④図・表、⑤著者情報をマスクした副本文のpdf版。
6. 上記のそれぞれを別個のファイルとする。
7. ファイル名には、主著者の姓をつけ、次のようにする。
 

(例) 姓が佐藤の場合

  - 1) 初稿投稿時
    - 初稿佐藤\_チェックリスト：(以下任意文)
    - 初稿佐藤\_投稿票：(以下任意文)
    - 初稿佐藤\_正本文：(以下任意文)
    - 初稿佐藤\_副本文：(以下任意文)
    - 初稿佐藤\_表：(以下任意文)
    - 初稿佐藤\_図：(以下任意文)

## 2) 修正稿

〇〇〇修正1佐藤\_チェックリスト：(以下任意文)

(注：〇〇〇は論文番号で、事務局から通知する。修正1は査読後の修正稿、再査読後は修正2となる。更なる修正が必要になった場合は修正3、修正4と付番する。以下同様)

〇〇〇修正1佐藤\_投稿票：(以下任意文)

〇〇〇修正1佐藤\_副本文：(以下任意文)

〇〇〇修正1佐藤\_表：(以下任意文)

〇〇〇修正1佐藤\_図：(以下任意文)

## 8. 原稿の送付方法: 次により、電子メールにて送信すること

- 送信先メールアドレス：2012年6月以降に当学会ウェブサイト [jne.umin.jp](http://jne.umin.jp) にてご確認ください。
- メールの件名：「佐藤\_日本看護倫理学会誌投稿：(以下任意)」とする。
- メール本文は編集委員長宛に、投稿の旨を記載し、提出原稿はメールに添付する。

## XII. その他

1. 執筆要領等については、部分的変更がありうるので、最新の情報を本学会ホームページで確認すること。
2. 著者には、校正原稿の郵送料等の実費負担を求めることがある。

## XIII. 編集委員会事務局 (2012年5月まで)

6月以降に関しては当学会ウェブサイト [jne.umin.jp](http://jne.umin.jp) にてご確認ください。

〒385-0022 長野県佐久市岩村田

佐久大学内 日本看護倫理学会編集委員会

E-mail: [kangorinri@saku.ac.jp](mailto:kangorinri@saku.ac.jp)

第5号への投稿期限：2012年8月20日(月)